

成果の説明書

(氏名) 岡村晃子	(学部) 経済学部
1 重要事項 2017 年度は今までのグループワークと意欲の研究に Dictation テストという新たな視点を加えて分析を実施した。それは分析に Dictation 結果を入れて、どのような動機付けが Dictation テスト結果に影響しているかという点である。Dictation は小テストであり、英語力を反映するとまでは言えないが、英語学習への取り組みと学習事項の習得を図る意味では基準となると理解し、テスト結果が上がっている学生の意欲の理由を比較してみた。結果として、Dictation テストの結果が高くなっていった学生は、英語を聞く時間をほかの学生より授業以外で多く、英語を話すことが面白くなってきているということがわかってきた。当然の結果ともいえるが、授業以外での学習、そしてそれを好きになるということが大きな要素のようである。2018 年度は Dictation にさらに Recitation を加えて、Dictation テスト、Recitation テスト、さらに英語力診断テストを加えて、動機づけの理由と英語力向上について調べてみる予定である。 さらに、しばらく研究が途絶えていた、呼称の研究が再開された。今回は歴史的な視点から日本での男女間、年齢、学校と仕事場での呼称の利用について調べる第一歩のデータ集めを実施した。結果は Historical Pragmatics conference で発表して、これからの研究継続に参考となるコメントを得ることができた。 論文出版 Akiko Okamura. 2018. Change in Motivation through Task-Based Language Teaching in the Japanese context『高崎経済大学論集』第 60 巻第 4 号、145-165 ページ 口頭発表 The contribution of self-regulation and emotional engagement in learning activities to improve speaking skills in English over a year. Annual conference of Applied Linguistic Association of Australia at Auckland University of Technology (AUT) City Campus, in Auckland, New Zealand, December 2017. Have globalization and the spread of English influenced address forms in Japan? LANGUAGE USE ACROSS TIME: What you didn't know you've always wanted to know about historical pragmatics at Padova university, Italy, February 2018 外部資金獲得 科学研究費 基盤研究 C 2017 - 2019 Dictation と Recitation 融合による発音力を伸ばす教授方法の確立	
2 その他の事項 高崎ラジオ、高崎経済大学のコーナーで英語学習について話す(10 月に 2 回) Journal of English for Specific Purposes の査読者としての貢献	
3 次年度以降の計画・抱負 来年度は科学研究費最終年となるため、英語を話す力 が Dictation, Recitation による	

練習をとりいれることで向上しているか、またどのような意欲の持ち主に一番効果的だったかについて調査のまとめ作成を予定している。また、呼称、今まで続けてきた学術論文分析についても、まとめの研究へとつなげていきたい。